

いけ花に着目したジャポニズム研究の新分野開拓

基盤科学系 吉川 順子

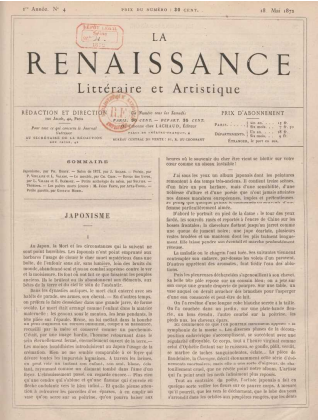
- 1. ジャポニズムについて
- 2. フローラルアートにおけるジャポニズム
- 3. 研究から教育へ



Aimé Humbert, *Le Japon illustré*, 1870

ジャポニズムについて — 研究の歴史

ジャポニズム japonisme … 19世紀後半から20世紀初頭の欧米諸国で起こった日本文化の影響を受けた芸術運動（英語ではジャポニズム japonism）



(Source gallica. bnf. fr/BnF)

- 1872年 ビュルティ「ジャポニズム」と題する記事（左図）
- 1879年 「浮世絵と印象派の画家たち展」と国際学術会議を開催（下図）
- 1980年 ジャポネズリー研究学会、創設
- 1998年 ジャポニズム学会に改称



1867年のパリ万博（*The Illustrated London News*, vol. 51, <https://archive.org>）



ジャポニズムについて — 研究が目指すもの

美術・工芸・建築・服飾・文学・音楽・舞台芸術・園芸など多岐に亘る分野で展開



Cf. 宮崎克己『ジャポニズム：流行としての「日本」』

◎歴史的事実の解明とその意義の考察

物の移動

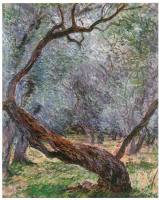
人の交流

作品研究

作品が生まれた社会的・文化的背景

◎現代文化における日本の存在を考える

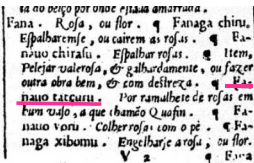
(左から)
ホイッスラー《金屏風》(1964、フリーア美術館)
モネ《オリーブの木》(1884、個人蔵)
安藤広重《木曾海道六拾九次之内 本山》(1837)



フローラルアートにおけるジャポニズム — 新分野の開拓

Q. いけ花が欧米諸国でどのように知られてきたか

- ・イェズス会編『日葡辞書』（1603）
- ・J・コンドル『日本の花といけ花芸術』（1891）



→ その他は不明な点が多かった

❑ 1. 日本関連欧文文献や絵画におけるいけ花に関する言説・描写の調査

- ・いけ花が描かれた浮世絵
- ・宣教師渡来からの伝書の内容を認識

→ 「伝書」が重要な役割を演じた

日本人の花のアレンジメントには芸術性、センス、想像力があり、我々の手本となる
Les Japonais mettent, dans l'arrangement des bouquets, un art, un goût, une fantaisie qui devraient bien nous servir d'exemple.
Louis Gonsse, *L'Art japonais*, 1883

これは日本の花でしょう、日本人がするようにいけなくては
Ce sont des fleurs japonaises, il faut les disposer comme font les Japonais.
Marcel Proust, *À la recherche du temps perdu*, 1919

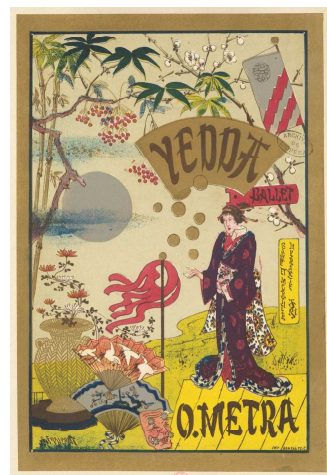
一部のフローリストは日本のいけ花に着想を得てフランス風に解釈し、美しい作品を生み出した
Quelques fleuristes se sont inspirés de l'Art floral japonais en l'interprétant à la française et ont créé dans cet ordre d'idées de très jolies choses
Albert Maumené, *L'Art floral à travers les siècles*, 1900

解明できればジャポニズムの広がりをもっと示すことができる



雑誌『芸術の日本』第15号の表紙 (1889)

(Source gallica. bnf. fr/BnF)



バレエ『イエッダ』のポスター (1879)

(Source gallica. bnf. fr/BnF)



Fig. 2-1 Le Concours des bouquets.
Un groupe de bouquets récompensés. (D'après des photographies.)

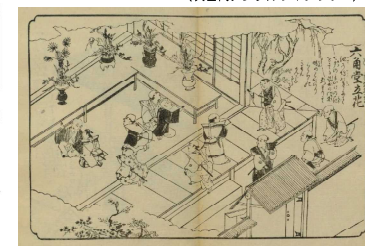
ティサンディエ「園芸展示会とブーケコンクール」 (1896)

(La Nature, N° 1203, Cnum - Conservatoire numérique des Arts et Métiers - <https://cnum.cnam.fr>)

Une innovation introduite cette année par le président de ces expositions, M. Th. Villard, a été un concours de bouquets auquel ont été appelées à participer, non seulement nos fleuristes, mais encore les dames et les jeunes filles mondaines parisiennes.

Ce nouveau sport, importé du Japon (où, pour se marier, une jeune fille doit savoir bien cuire le riz, savoir jouer de la mandoline et faire un bouquet), a été fort apprécié et près de cent bouquets avaient été envoyés par les mondaines, qui, mieux renseignées, viendront, sans nul doute, en plus grand nombre l'année prochaine.

17世紀に遡る立花会、『宝永花洛雑見圖十二』
(次世代デジタルライブラリー)



最古のいけ花の伝書とされる
『花王以来の花伝書』 (15世紀末)

(Wikipediaより)



江戸時代に刊行された
(左から)
『挿花字以学』 (1819)
『生花早満奈飛』 (1835)

フローラルアートにおけるジャポニスム — 研究で明らかになったこと

《欧米諸国におけるいけ花受容と使用された伝書及びその絵図の研究》 (2022~2024年度、科研費)

❑ 2. いけ花の伝書の輸入実態の調査

シーボルトが持ち帰った伝書
ヨーロッパの図書館の伝書入手記録
お雇い外国人の蔵書にあった伝書 etc.



- ・立花様式より生花様式の伝書が多くなる
- ・特に、遠州流の生花様式の伝書が多い

→
作品図を活用

❑ 3. 伝書の作品図の活用例の調査

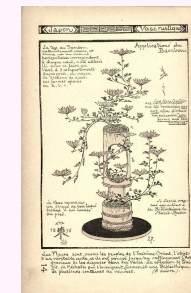
- ・生花の図にデザインの観点から注目
- ・流れるようにいけた曲線的なものが多い
- ・自然素材の花器にいけたものが多い



立花様式



生花様式



エミール・レバールによる図案集 (1877) に収録された生花の図



山忠左衛門編『瓶花図彙』
(1698)



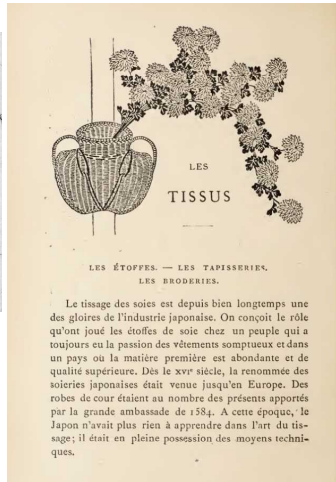
アンペール『絵で見る日本』 (1870)
立花が描かれた挿絵



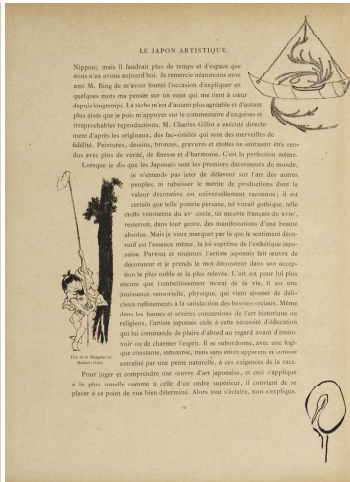
ロニー「日本の植物学」
(1872)に掲載された
立花の分解図
(Source gallica. bnf. fr/BnF)



春古洞斎
『志能夫草』
(1822)



ゴンス『日本美術』 (1886)
掲載された生花の図



雑誌『芸術の日本』第2号 (1888)
掲載された生花の図



窓月斎鷹一由
貞月斎鷹一堤
『挿花月の友』
(1826)

フローラルアートにおけるジャポニスム — 今後の展望

《フローラルアート関連文献に見るいけ花受容とジャポニスムの研究》 (2025~2027年度、科研費)

□ 4. フローラルアートにおけるジャポニスムの作品例の調査



(Source gallica. bnf. fr/BnF)

当時のとある作品集より

← 左側の作品には
とある伝書からの影響が見られる



□ 5. 作品が生まれた社会的・文化的背景、作品が与えた影響の分析

Q. いかなる生活様式の変化がいけ花の受容に作用したのか？

Q. いけ花を通して自然や環境に対する意識にいかなるインパクトを与えたのか？ etc.

研究から教育へ

初修外国語 (フランス語初級・中級)

●他者の言語や文化に対する
寛容性を涵養し、世界の
多様性を守る (EUの複言語主義)

●世界に関心を持ち、国際
交流に臨める一歩を作る

“海外経験のある学生”と“自分に
は無関係と考える学生”の格差



出前授業 (「ジャポニスムとは」) にて

ジャポニスム関連 (三大学科目、大学院科目)

●交流の歴史を知り、未来
に継承していく

●自国の文化の価値を認識
し、守り発信していく

単純に日本文化が優れている
ということではない

●自国の伝統と異文化受容
との間で、いかにして新しい
文化が生まれるかを学ぶ

高年次科目 (フランス語：文化・文学・思想)

単にフランスに関する知識を
身に付けるのではなく

●より良い日本を作るため
の比較対象として、フランス
の歴史や現状を学ぶ

ex. 少子化問題、環境問題、観光対策
食文化、働き方、教育、老いと死

●フランスの高い付加価値
や発信力の源泉である、価値
観や美意識を知る

ex. 芸術、文学、映画